

司式: 鮎川 健一
奏楽: 橋本恵美子

前奏: 「我が心は、何故悲しむのか」 (J. パッヘルベル)

招詞: 主に望をおく人は新たな力を得 驚のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れない。(イザ40:31)

讃美歌 59「この地を造られた」

罪の告白・赦し

聖霊を求める祈り

朗読聖書①詩編 14 篇

◆貧しい者への福音

- 01 【指揮者によって。ダビデの詩。】神を知らぬ者は心に言う/「神などない」と。人々は腐敗している。思むべき行いをする。善を行う者はいない。
- 02 主は天から人の子らを見渡し、探される/目覚めた人、神を求める人はいないか、と。
- 03 だれもかれも背き去った。皆ともに、汚れている。善を行う者はいない。ひとりもいない。
- 04 悪を行う者は知っているはずではないか。パンを食らうかのようにわたしの民を食らい/主を呼び求めることをしない者よ。
- 05 そのゆえにこそ、大いに恐れるがよい。神は従う人々の群れにいます。
- 06 貧しい人の計らいをお前たちが挫折させても/主は必ず、避けどころとなってくださる。
- 07 どうか、イスラエルの救いが/シオンから起こるように。主が御自分の民、捕われ人を連れ帰られるとき/ヤコブは喜び躍り/イスラエルは喜び祝うであろう。

朗読聖書②マタイによる福音書 5:17-20

◆律法について

- 17 「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。
- 18 はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消え去るまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない。
- 19 だから、これらの最も小さな掟の一つでも破り、そうするように人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを守り、そうするように教える者は、天の国で大いなる者と呼ばれる。
- 20 言うておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさってなければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」

祈祷

真の命、救いの源なる御子イエス・キリストの父なる御神さま、聖名を賛美致します。あなたの御赦しの下に与えられてきたこれまでの日々感謝致します。人の思いにあつては御心に適わぬもの、また試練の連続にも思わされます。しかし新たに主の恵みを受けてこの礼拝堂で、またライブ配信にて、時を同じくして夫々の場にて御言葉に聴き、祈りと賛美を献げる幸いに感謝致します。

酷暑の8月を歩み通し、新たな月日の歩みに主の御力が豊かに顕され、この世に救いをもたらす宣教の業が興され、更に前進していけますように。主の御腕に押し出されながらも、困難なことも多く経験します。打ちひしがれる出来事も経験します。その中で、罪の自覚も益々重ねられていく日々です。それでも一人ひとりに主が呼び掛けてくださる幸いを思い、夫々に

置かれた中であつて進み出で行く者です。

或る牧者は私たちに語りかけます。

今から神の助言によって歩むことを決心した。私たちが自分の愚かさを知ることは聡明になる重要な段階である。盲人は友の腕に寄りかかって安全に家に着くが、同様に私たちも、たとえ自分で見ることは出来なくても、全てを見給う神に抛り頼むことが如何に安全であるかを確信して、些かの疑いも抱かず、全く神の導きに自らを委ねたい。

私たちはこの思いを受け留めるべくして、なお主にあつて、福音の真理と救いの平和の中に住まうよう導かれます。この導きによって私たちは罪の告白と悔い改めの思いが、心の底から湧き上がり、御言葉の真理に呼び覚まされて再び立ち上がることが出来ます。その中で困難な時にあつても喜びを抱き、上を仰ぎ見つ主を賛美、礼拝する者です。どうか御前に立つに相応しい者となるべく、主の御赦しの内にありますように。

この世にある人々が、主なる神の真理、正義と平和、愛する心と呼び覚ましてください。真の権威を持つ主なる神を畏れ敬う者としてありますように。先んじて主の恵みを与えられているキリスト教会が、また主を信じる信仰に歩む人々が、主にある真理の証しを世界の至る所で広められますように。

自然災害の猛威に曝され、また戦乱、混乱の続く中にあつても、主の平安と慰め、祝福が豊かにありますように。その中で福音宣教の闘いが続きます。主の思い、御心にある御計画の確かさを心深く留め、福音の真理に生かされる者に相応しく、主の御手の内に守られ導かれますように。

これより語られる御言葉が主の御霊の導きを豊かに受け、御声を豊かに届かせてくださいますように。また聴く私たちの心に深く備えられ、ここから遣わされて行きますように。

終わりの日の来る時まで主の御国を待ち望みつつ、主の平和を祈り求める世界の諸教会、また主にあつて共に生きる信仰の友の祈りに合わせ、尊き主の聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

合唱: "You raise me up" 聖歌隊

説教: 「愛のわざに励む」

佃 雅之

プロテスタント教会の信仰の原理の一つに『聖書のみ』という言葉があります。私たちの信仰と行為の基準は、教会の伝統や教えにあるのではなく、ただ『聖書のみ』にあるということを中心とする言葉です。私たちの教会もこの事を大切にしています。そのために講壇には十字架がありません。一冊の聖書が置かれているだけです。キリスト者にとって、何故、『聖書のみ』ということが大切であるのか、その理由の一つが今日の福音書の個所に示されています。

「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っはならない。廃止するためではなく、完成するためである。」

「律法と預言者」と言うのは旧約聖書全体を指す言葉です。「神の独り子であるキリストが、この地上に来られたのは、聖書に記された神の言葉、神が与えてくださった約束と命令を完成させるためだ」と書かれています。「律法」とは神が人間にお与えになった救いの約束です。「預言者」は御心を告げて神に従うことを求めた人たちです。「律法」も「預言」も、父なる神の御心ですから、キリストがこれを「廃止」されることはあり得ないことです。特に「律法」については「一点一画も消え失せることはない」とまで言われています。「一点一画も」と言われているので

すから、“どのような些細なことで「廃止」されることはない”ということでしょう。

旧約聖書が書かれたヘブライ語は、22文字ありますが、その中には点(「**ツ**」)のように見える小さな文字もあれば、1本の線(「**フ**」)のように見えるものもあります。但し、1本の線も真直ぐ(「**フ**」)なのか丸みを帯びている(「**フ**」)のか、ちょっとした違いで意味が異なるのがヘブライ語の特徴です。その「一点一画」に、神の約束と命令の重みが押し掛かっているのです。“わたしが来たのは、聖書の言葉一文字一文字が語り掛ける神が約束して下さった事柄の意味を丁寧に取り出して、それを深く、明らかにするためだ”と言われているのです。

「完成するため」という言葉に込められた意味は、“神と私たちとの繋がり”です。私たちは目に見えない、触れることの出来ない神との繋がりで生きています。神との繋がりを何よりも大事にして生きるのが私たちキリスト者です。しかし、私たち人間は時に、この繋がりを大切にすることが出来ません。見失い、自ら手離すことがあります。“神を愛しなさい”と言われても、偶像に心が向かいます。“隣人を愛しなさい”と言われても、妬みや憎しみを抱き律法の要求を充たすことが出来ません。そのような私たちにキリストは、「これらの最も小さな掟を一つでも破り、そうするようにと人に教える者は、天の国で最も小さい者と呼ばれる」と言われます。厳しい言葉です。私たちが「律法」を完全に満たすのでなければ、“天の国に、神の国に入ることができない”と言われるのです。

しかし、このキリストの言葉は『信仰のみ』というプロテスタント教会の信仰の原理『信仰義認』の教えを退くような言葉に聞こえますから戸惑う方も多いかも知れません。『信仰のみ』によって救われる、使徒パウロの伝えた「人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰による(ロマ3:28)」という『信仰義認』の教えというのは確かな真理です。“信仰のみによって救われる”というのは、“恵みのみによって救われる”ということです。この「恵み」は、私たちが自ら獲得するものではありません。神から一方的に与えられるものです。私たちは「恵み」を知ったなら、喜んで、感謝して、信頼して戴くだけです。ですから、行いによって義とされ救われることはありません。律法自体に私たちを救う力はないのです。しかし、しかだからと言って、“もう何もなくていい”と言うことではありません。キリストは、「しかし、それをしっかり守り、そうするように教える者は、天の国で偉い者と呼ばれる」と言われています。

聖書の言葉を真剣に受け取り、神の語りかけとして私たちが聴き従おうとしているか、聖書に対する私たちの執るべき態度が重要なのです。キリストがこれほど厳しい要求をされるのは、私たちが生きるためです。『神の国』、つまり神の支配の下で生きることを望んでおられるからです。

キリストは、今日の個所の前、『山上の説教』の初めに『9つの幸い』を語ってくださいました。『幸い』とは人間が自分の思いによって獲得できるのではなく、私たちが神の御意思に従って生きようと努めるときに神から与えられるギフトであります。神としっかり繋がることによってもたらされる喜び、これが『幸い』です。“この『幸い』は何者も私たちが奪い取る事の出来ない信仰者に与えられる喜びなのだ”ということを私たちは分かち合いました。そしてそのことを前提に、或る意味無条件に、“あなたがたは地の塩・世の光として生きよ!”と主は言われました。

しかしこの主の言葉を聴いても、まだ多くの人たちは真の命に生きることが出来ていません。主の言葉に素直に従うことが出来ず、生き方を変えることが出来ずにいるのが私たちであります。今日は旧約から『詩編』14篇を読みました。3節に「善を行う者はいない。ひとりもない。」という言葉があり

ます。使徒パウロは、この3節の言葉を『ローマの信徒への手紙』で引用して福音の真理を伝えています。「正しい者はいない。一人もない。悟る者もなく、神を探し求める者もない。皆迷い、だれもかれも役に立たない者となった。善を行う者はいない。ただの一人もない。(3:10-12)」この言葉は、地上にある私たちの現実を告げています。

20節に「義」という言葉が2度繰り返されています。聖書が「義」と言うのは、この世の常識や規則に照らして、ただ“正しい”ということではありません。“神が人間にお求めになる相応しい生き方”という意味で使われる言葉です。神が喜ばれ、神が“それでよしい!”と思われることが「義」という1字には込められています。

神が望まれる生き方とはどのような生き方でしょう? その基準を示したのが「律法」です。キリストは“律法を完成させるために来られた”と宣言されました。ここでキリストが言われる「完成させる」という言葉には、何か足りないものを補って完璧にさせるという意味はありません。「律法」は神の御心が顕された神の約束と御命令ですから不完全なものでは決してないのです。しかし、「律法」を守るためにどうしたらいいのか、当時の人たちは色々苦労したようです。そのことを最も真剣に考えたのが「律法学者」と「ファリサイ派」と呼ばれる人たちでした。彼らは“「律法」を守るためにはこうすればいい”、“この「律法」はこう解釈することが可能だ”、“これをしないようにすれば守っていることになる”と、“日々の生活の中に細かな規則をどんどん増やしていった”と言われます。彼らの努力はいかにも「律法」に対して忠実であるかのように見えます。しかし、「律法」を守るために規則を作り、今度はその規則を解釈するために細則を作る、それで結局「律法」が本当に求めていることが見えなくなる、いつの間にか、規則は守っているけれど「律法」が本来語りかけ、求めている神との関係、最も大切な人間と神との繋がりを見失って行ったのです。

結果、「律法」を行っているのではなく、人間が作った規則を守っている。このようなことは今の教会の中にもあるかも知れませんが、今後、興り得るかも知れません。自分の解釈で形だけ整えて、神に対して「義」を立てようとしても、それは結局、「律法」を守っていることにはならないのであります。神の正義ではなく自分の正義を立てようとしているだけなのです。そういう人は「律法」を行う自分を誇って周りの人を見下し始めます。“自分は出来ているのに、何故あなたはできないのか”と責めるようになります。キリストは「律法」を、聖書の言葉を、自分を偉く見せるための道具とすることを決して赦されませんでした。人と比べて自分を誇り、人を見下すことが「律法」の本質であるはずがありません。しかし彼らは熱心に祈り、断食もし、更に1/10の献げ物もしましたから、人間の目には彼らの行為は立派に見えたのでしよう。そこでキリストは「言っておくが、あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義にまさっていないければ、あなたがたは決して天の国に入ることができない。」と言われます。分かり易く言葉換えるなら、“あなた方のキリストへの信仰が、律法学者やファリサイ派の人々の律法を守ろうとする思いに勝っていないければ”ということなのです。

“キリストへの信仰”というのは、“キリストへの服従”と言ってもいいでしょう。キリストと共に生きるという新たな生き方への呼びかけでもあります。

「律法学者」と「ファリサイ派」というのは、「律法」を形式的に守るだけを考えていました。彼らは形だけに囚われて中身を失っています。それだけではありません。彼らは“自分は義しい生活を送っている”と自負していますから、悔い改めません。却って神から遠いのです。彼らは人の目から見れば確かに立派でした。しかしそれだけに自己満足とプライドがありました。

神が求められていることは表面的な態度ではなく心の態度です。神は私たちの心を見ておられます。彼らの「義にまさる義」とは、キリストを救い主、律法の完成者として受け入れることです。悔い改めて、ひたすら神の憐れみに従う者こそ「律法学者やファリサイ派の人々にまさる義を持つ」になるのです。

『詩編』の言葉を繰り返しますが、私たちは皆ともに汚れています。「善を行う者はいない。ひとりもない。」のです。ですから自分の行いや知恵で神の義を完成させることはできません。しかし、「律法」を完全に行うことの出来る唯一の方が居られます。キリストです。神は迷い、背き、真理を見失う私たちを救うために独り子イエスを世に送って下さいました。そればかりか、「律法」に背き続ける私たちの罪を引き受けて十字架に架かって下さいました。そのキリストが不完全で不真面目な私たちをそのまま「義」として下さるために、この朝、「わたしが来た」と言って下さっています。私たちの「義」はイエス・キリストを信じることによって与えられる「義」であります。「信じる」というのは、「キリストと一体となる」ことであるからです。

宗教改革者の一人カルヴァンは、「信仰によって義とされた人を神が活かして下さって用いて下さって、常に導いて下さる」ということを強調しました。『改革派』と呼ばれますが、私たちの教会はこの伝統に立っています。宗教改革の目的は「教会が改革され続ける」ことです。常にキリストを土台として、御言葉によって改革され続ける教会、固定化されない教会であります。

これからの私たちの歩みも、主が指し示し導いて下さいます。私たちにキリストが吹き込んで下さった『聖霊』は、永遠に私たちと共に働いて下さいます。私たちの為すことは、この地上で完成することはないでしょう。けれども無意味なことは何一つありません。全て神の恵みの下に置かれていることであるからです。地上にあっては不条理と思えること、理不尽で無責任な人間の言葉に悩まされることもあります。しかし、それもまた、神が与えて下さり、救いの約束の中にあり、いずれ神ご自身が苦難の意味に癒えて下さいます。

聖書に記された神の言葉は、聖なるもの、義しいもの、善いものです。そこに向かってキリストご自身が私たちを導いて下さいます。私たちは神の憐れみを、恵みを受け取り、この世に顕しながら生きる者です。欠け多き小さな私たち一人ひとりから、この小さな教会から、神の恵みが溢れ出します。私たちが主に繋がっているなら、必ず主が報いて下さいます。神が恵みをもって私たちを支配して下さるところ、それを「天国」と言います。神の恵みが私たちを支配して下さっているから、自分の力や義しさを誇って見せた「律法学者」や「ファリサイ派の人々の義」に私たちは優ることが出来るのです。キリストにあっては「律法」も「預言」も神の愛に他なりません。私たちが「律法」を「完成」し、「預言」を成し遂げて下さる主イエス・キリストと一つとなって、愛の業に励む者でありたいと思います。

お祈りを致します。

聖なる神、私たちを愛し、私たちが赦して下さるあなたの御業を褒め称えます。主よ、どうか、私たちが、ただ信仰により、恵みにより義とされた者として、あなたの御心を、この世にあって実現していくことが出来ますように。常にあなたの恵みによって生きる者として下さい。あなたの御心に従うことが、心からの歓びとなりますように。主の聖名によって祈ります。アーメン。

讃美歌:514「美しい天と地の造り主」

讃美歌:78「わが主よ、ここに集い」

献金・感謝の祈り(長原 光)・主の祈り(讃美歌 21 93-5A)

ご在天の父なる御神さま、今朝も聖霊降臨節第16主日礼拝を共に、新たに献げることが出来まして感謝を致します。

今朝、9月最初の主日に、会堂にて、またズーム礼拝にて、あなたに感謝を献げる礼拝を献げることが出来まして感謝致します。また引き続き聖餐に与らせて頂き感謝致します。

私たちはこの地上の歩みにおいて多くの罪を興し、律法主義に陥り、あなたの義から遠ざかること甚だ多くありますけれど、どうかあなたが赦して私たちを導いてください。私たちの心を頑なにさせる、それはあなたの意図かもしれませんが、それは私たちを鍛えて、あなたの御子イエス・キリストの十字架と復活に示されたあなたの愛に到達する一筋の道であることも覚え、改めて感謝を申し上げます。どうか、私たち一人ひとりの健康と聖霊を、どうかあなたが清めてください。

この世には戦争もあり、災害もあり、多くの死と、罪と、憎しみと、絶望と、虚無があります。あなたの御国の御支配がもっと明らかに、またあなたの御国の御支配の完成が来るその日まで、どうか私たちをあなたの僕として、あなたの御用の業に携わらせてください。

私たちは多くの物を与えられております。どうかそれをあなたに対する献身と感謝の思いをもって御前にお献げ致します。どうか、あなたの御用のために清めてお使いいただきますように。

イエスさまが、地上の歩みで弟子たちに教えて下さった「主の祈り」をもって、この一巡りの歩み、またこのひと月の歩みを始めさせてください。「主の祈り」…アーメン。

讃美歌 88「心に愛を」

派遣と祝福 司式:主は言われます。「私は誰を遣わすべきか。 会衆:私がここにおります。私をお遣わし下さい。 司式:「父が私をお遣わしになったように、私もあなた方を遣わす」と主は言われる。キリストの平和の使者として行きなさい。>

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

報告:本日配布、新しい「会員名簿」の取り扱いについての諸注意について。

後奏:「我らは皆唯一の神を信ず」(J. S. バッハ)